ホームページでは、生徒の名前は名字のみにしてあります

笹竜胆だより

教育目標「自ら考え　互いに助け合い　粘り強くやり抜く生徒」

令和５年度　阿木中学校通信　令和６年２月２１日　　校長　細江 美和

卒業・進学、進級を見据えた更なるレベルアップ

１月９日に実施した第5期はじめの全校朝会で、生徒会長の丸山さんは、「継続力」という言葉をつかって、生徒会プロジェクトの期間が終わっても学校生活の質を落とさず、いつでもできる力をつけていこうという話をしました。１月１５日から１９日にかけて行われた生徒会プロジェクトでは生徒会や各委員会から具体的な目標が示され、達成の〇がつかなかった時には、自分たちで原因を探ったり改善策を考えたりする姿、委員が呼びかけている姿、先輩が後輩に助言したり様子を確認しに行ったりする姿など、仲間と関わり合いながら取り組んでいる様子が見られました。

２月１３日（火）から、第6期に入りました。１年生は冬休み以後、時間をかけて2月６日の半日入学の準備をしてきました。先輩になる初仕事です。１年前に自分たちがどんなことを感じたのか、入学後を見据え、今何を伝えるとよいのか一つ一つ丁寧に考え、ゼロから創り出すことを自分たちも楽しみながら取り組んでいました。2年生は、来年度、どのような学校にしていきたいか、何を大事にしたいか、時間をかけて話し合っています。このことが、生徒会選挙や生徒会スローガンにつながります。3年生は、巣立ちの時が迫っています。公立高校を受検する生徒は、WEB 出願を終え、学習に本腰を入れています。そして、昼休みの過ごし方を見ると、名残を惜しんでいるようにも見えます。６ 期は、１ 年間目指してきたことが達成できたか自分や仲間の成長を確認し、足らないことがあれば再チャレンジをして、新しい一歩を踏み出す準備をするときです。「自治力」を発揮して、気持ちのよいゴールを迎えられるよう、見守っていきます。

『学校運営協議会』スタートから１年　～地域とともにある学校づくり～

令和4年6月30日に中津川市学校運営協議会の設置等に関する規則が定められ、今年度から「学校運営協議会」がスタートしました。「学校運営協議会」は、『未来を担う阿木の子どもたちのために、地域と学校がパートナートなって今まで以上に連携を深め、目標や情報を共有したり、一緒に活動したりしながら、学校づくりに共に取り組むこと』を目指しています。「学校運営協議会」を設置した学校は、コミュニティースクールと呼ばれます。いただいた意見を学校運営に生かすというこれまでの「学校評議員会」と違うのは、「学校運営協議会」は共に意思決定をしていく合議体（パートナー）であるということです。

阿木地区の「学校運営協議会」は、小中学校合同で設置され、会長の渡辺忠義様、副会長の木村良徳様（阿木事務所長）をはじめ、１2名の委員と2名の事務局で構成されています。今年度は、3回の会議を実施しました。その際、小学校では授業を、中学校では合唱発表会を参観していただいた後に会議を行いました。また、体育大会にもお越しいただき、ダンマス（演技）の審査員を務めてくださいました。

【阿木小での授業参観】

【学校運営の状況について報告】

今年度最終となる2月１4日には、 穏やかな仲間関係の中でのびのびと活動し、地域行事にも積極的に参加していることなど、子どもたちのよさについてお話ししてくださり、キャリア教育の充実から夢や希望をもてるようにしていくことや「ひとりだち」に向けてやりたいことを見付けたり生活力を身に付けたりする教育への期待などについてご意見をいただきました。また、資源回収に関わる提案もいただき、 実り多い会となりました。

委員の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。

4月からは、 新たなメンバーで、阿木こども園も合同の「学校運営協議会」として、再スタートする予定です。よろしくお願いします。

①について

『学び合い』は、多くの学校では、「交流活動」と言っています。交流の仕方が身についているのかどうかを数値で表すことは難しいですが、教科の授業以外でも生徒会が主体となって学校生活の課題点を見出し、改善する方法を検討したり、より現実的な命を守る訓練を企画・運営したりしています。今年度は市内の中学校と合同研究を進めており、東濃地区内の8校から28名の先生方が授業参観にいらっしゃり、総合的な学習の時間などにお越しくださった一般の外部講師の方からも授業後の感想をいただくようにしていますが、生徒の学び合う（交流をする）様子は、とても高い評価を得ています。今後も丁寧に見届けを行って参ります。

②について

どんなことにも、得意、不得意はあり、個人差もあると思います。しかし、「よりよいひとりだち」に向けて、身近な仲間の力を借りながら、少しずつ乗り越えていってほしいという願いもあります。授業の様子や生徒によるアンケート、教員同士がお互いに授業を見合うことなどから状況を把握し、個別に声をかけたり配慮をしたりして参ります。

③について

「8割達成」がストレスになることはあり得ると考えています。一方で、「8割達成」ができなかった授業では、授業者が「今日は学習課題に〇〇という言葉が足りなくて分かりづらかったね。先生の反省点です。ここのところは・・・ということだよ。次の時間のはじめに、もう一度、確認します。」などと言っている場面を見かけます。「8割達成」ができなかった時は、授業者側に改善点があると考え、再度、ポイントを絞って押さえなおすようにしています。その授業で十分に学習したことを確認する場での「8割達成」を目指していますので、生徒の「誰一人取り残さない」という授業への参加意識が高いこともあり、良好な達成状況です。今後もストレスになることがないよう、気にかけて参ります。

④について

文部科学省が定める現行の学習指導要領の最重要ポイントの一つである「主体的・対話的で深い学び」を推進するために、『学び合い』という名前の交流活動を大切にしています。授業者は教科の特性や単元、生徒の学ぶ様子などから教材研究をし、交流の仕方、時間設定、内容などを変えています。また、講義式の聞く時間が長い授業に対して他の人に教えることを含むアウトプット型の授業は、学習定着率が15倍以上も高いという研究結果があります。学習の成果を確認する場として、授業では毎時間、授業の終末に評価テストや記述による確認、単元テスト、実力テスト、期末テスト（定期テスト）、その他、到達度テストや確認テストなど、とてもたくさんの機会があります。また、脳の発達や学力に関わる専門家の話では、長期的な記憶としての学力を高めるためには、家庭学習など年齢に合った習熟の時間を確保することと、十分な睡眠が欠かせないと言われています。今後も、多方面から分析的に状況を把握し、常に検証と改善を心掛けて参ります。

⑤について

阿木中の生徒は、幼少期からクラス替えがなく、少人数の同じメンバーで学校生活を送っています。この環境下で多様性を求めていくためには方法が限られてしまいますが、その工夫の一つが異学年合同の活動や学習の場です。どんなことにもプラス面とマイナス面がありますので、やり方や配慮事項については、折に触れてよりよい方法を検討して参ります。

※詳細は、学校報「笹竜胆だより１２月号」をご覧ください。

※保護者評価と生徒によるアンケート、教職員による自校評価の３点から、冬休み以後、教科ごとに授業改善を図ったり、全体に関わることは「研究推進委員会」や「指導部会」で話し合ったりして、見直しを進めています。

※文字による説明よりも、実際の授業の様子を見ていただいた方が分かりやすいと思います。いつでも学校へお出かけください。そして、生徒と一緒に『学び合い』を取り入れた授業に参加し、ご意見をいただければ幸いです。